

教育相談（栄養教諭）

概要

「教育相談」は、簡潔に言えば「教育現場で実施される、あらゆる相談」ということになるが、そこには、保育の対象である子どもから小中学校の生徒を対象とするものまで、幅広い実践が含まれているため、対象者によって、教育相談に必要なとされる知識はさまざまである。しかしながら、教育相談におけるカウンセリングマインドやスキル（技法）は、対象者が違ってはほぼ共通していることを理解し、教育者がその部分をしっかり身につけておけば、どの教育現場においても、適切な相談対応ができるはずである。本科目では、主に保育現場で展開される教育相談を念頭におくが、少し幅を広げた話題も取り入れていく。

担当教員	築田美抄
授業形態	単独
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	
時間数	
単位数	2

目標

教育（保育）現場における教育相談の意義と理論を理解する。
 教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事項を含む）を理解する。
 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解する。

各回の内容

1. 教育相談の意義－事例 による理解－
2. 教育相談の全体像と用いられる理論・概念
3. 教育相談におけるカウンセリングマインドとカウンセリングスキル
4. 事例 （保護者との信頼関係と連携）
5. 事例 （子どもどうしのトラブル）
6. 事例 （障害をもつ可能性がある子ども－幼小連携のメリット－
7. 「不登園・不登校」「虐待の疑い」への関わり－地域機関との連携－
8. 保護者からの相談への対応
9. 定期試験

準備学習（予習・復習等）

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

試験70%、毎回の感想文30%

教科書

大野精一編著「教師・保育者のための教育相談」（萌文書林、2017）

参考文献

都度、必要に応じて紹介する。

教職実践演習（栄養教諭）

概要

教育実習に臨んだ結果をふまえて、教育現場で望まれる資質や能力を高めるため、総合的に栄養教諭としての知識と実践力を培う。

担当教員	津田和加子
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	食物栄養専攻2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

今までの学習の振り返りをし、具体的事例について、不足している知識技能を補完できるような演習を行う。短大2年間で学んだ必要な知識技能を基に、教員としての使命感や責任感を持って栄養教諭として実践できる能力を修得することができる。

各回の内容

1. 今までの学修の振り返りについて

2. 教職の意義や教員の役割

3. 学級経営について

4. 小学校での校内協力体制と児童とのコミュニケーション

5. 中学校での校内協力体制と生徒とのコミュニケーション

6. 教科等の効果的な指導について

7. 栄養教諭について

8. 特別支援教育について

9. 家庭（保護者）との連携について

10. 地域との連携について

11. 個別相談指導（肥満など）

12. 個別相談指導（食物アレルギーなど）

13. 教材研究 - 学習に合わせた教材

14. 教材研究 - 効果的な教材

15. まとめ

準備学習（予習・復習等）

予習：今までの学修を振り返り自分の課題について整理しておく。

復習：配布プリント等を用いて復習する。レポートを提出する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

各会の振りかえりレポート、課題への取り組み70%、課題レポート30%

教科書

プリントを配布する

参考文献

授業内で随時紹介する

栄養教育実習事前事後指導

概要

栄養教育実習のための事前指導事後指導を受け、書類の書き方や授業案の作成を中心に学ぶ。また、教育実習の成果をまとめ、発表の場を通して学びを深める。

担当教員	津田和加子
授業形態	演習
学期	前期後期
必修・選択の別	選択
対象学生	食物栄養専攻2年
時間数	90分×15回
単位数	1

目標

教育実習に必要な知識および具体的な準備ができる。また事後には、実習報告会を実施することを通して、学びの体験を整理し、深めることができる。

各回の内容

1. 栄養教諭資格取得についてのオリエンテーション
2. 栄養教育実習の心得、栄養教諭資格取得者としての心構え
3. 栄養教育実習校依頼手続きおよび書類に関する準備
4. 栄養教育実習についての諸注意
5. 実習校との打ち合わせ
6. 授業計画に関する検討
7. 授業計画に関する検討
8. 教育実習記録簿のまとめ
9. 教育実習後の総括的ふりかえり
10. 栄養教育実習での問題点の整理
11. 栄養教育実習後の問題点の検討
12. 栄養教育実習報告会の告知と案内
13. 栄養教育実習報告会の計画
14. 栄養教育実習報告会準備
15. 栄養教育実習報告会準備

準備学習（予習・復習等）

配布プリント等を予習・復習する。栄養教育実習報告会の準備を行う。指導案やレポートを作成する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

課題に対する取り組み50%、栄養教育実習報告会の準備と発表内容50%

教科書

プリントを配布する

参考文献

前年度の教育実習報告会資料

栄養教育実習

概要

多岐にわたる「食に関する指導」の全体計画とその実際を、教育現場において体験的に学ぶ。栄養教諭にとって、学校給食は生きた教材と言われている。その教材といえる給食づくりを「給食管理学外実習」で、体験してきた。それを踏まえて、栄養教諭としての実習を行う。

担当教員	津田和加子
授業形態	実習
学期	通年
必修・選択の別	選択
対象学生	食物栄養専攻2年
時間数	集中5日間
単位数	1

目標

学校管理者をはじめ学級担任との連携による実習を通して、栄養教諭として必要な知識と実践力を高めることができる。

各回の内容

1. 指導教諭等からの説明（学校経営、校務分掌、服务等）
2. 児童生徒への個別的な相談指導の実習
3. ・児童の相談の場の参観および補助など
4. 児童生徒への教科・特別活動等における教育指導の実習
5. ・学級活動および給食の時間における指導（参観及び補助も含む）
6. ・教科などにおける教科担任などと連携した指導の参観、補助
7. ・給食放送指導、配膳指導、後片付け指導の観察、補助
8. ・児童生徒集会、委員会活動、クラブ活動における指導の観察、補助
9. ・指導計画案、指導案の立案作成、教材研究など
10. 食に関する指導の連携・調整の実習
11. ・校内における連携・調整（学級担任、研究授業の企画立案、校内研修など）の参観、補助
12. ・家庭・地域との連携・調整の参観、補助

準備学習（予習・復習等）

予習：指導案の作成など研究授業の準備

復習：実習報告書の作成

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

栄養教諭実習録20%、各実習校からの評定（桜の聖母短期大学栄養教諭実習成績評価表）80%をもとに評価する。

教科書

プリントを配布する

参考文献

新学習指導要領（平成29年） 栄養教諭論 実践研究 栄養教諭のための学校栄養教育論

栄養教諭活動論

概要

食に関する指導に関係する法令や学校教育における食の指導場面とそのあり方について学び、栄養教諭の役割及び職務内容を理解する。

担当教員	津田和加子 土屋久美
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	食物栄養専攻2年
時間数	90×15回
単位数	2

目標

現代の児童及び生徒の栄養に係る問題を理解し、食に関する課題を踏まえた上で、食に関する指導の方法を修得する。これらを通して、栄養教諭としての基本知識・技術を身につけることができる。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. 食生活に関する歴史・文化
3. 幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題
4. 栄養教諭の職務内容、使命、役割
5. 発達に応じた食に関する指導と食生活学習教材
6. 食の指導に係る全体的な計画
7. 食に関する指導の展開
8. 給食の時間における食の指導
9. 教科における食の指導（家庭科、技術・家庭科）
10. 教科における食の指導（その他）
11. 道徳、特別活動における食の指導
12. 総合的な学習の時間における食の指導
13. 家庭、地域と連携した食の指導および、食の指導をする上での配慮
14. 指導案作り
15. 指導案の発表・相互批評

準備学習（予習・復習等）

教科書の次回授業内容を読んでおく。配布プリント等の復習をする。指導案の作成・模擬授業発表の準備

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

課題および授業に取り組む態度20%、指導案作成40%、模擬授業40%をもとに評価する

教科書

金田雅代著『三訂 栄養教諭論 - 理論と実際 - 』建帛社

参考文献

新学習指導要領（平成29年） 栄養教諭論 実践研究 栄養教諭のための学校栄養教育論